

令和5年度
笛吹市総合教育会議資料

「子どもの読書活動について」

笛吹市教育委員会 図書館

【子どもの読書活動について】

笛吹市では、子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)に基づき、平成31年3月に「第二次 笛吹市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動推進に日々取り組んでいます。

今年度、子どもの読書活動をより一層充実させるために「第三次 笛吹市子どもの読書活動推進計画」を策定中です。図書館や保育所に通う子どもの保護者に対し、家庭や地域における子どもの読書がどのような状態であるか、また、児童生徒に対し、読書活動と読書環境の実態について、令和5年6月にアンケートを実施し、平成29年6月に実施したアンケート結果との比較及び考察を行いました。

－ 目 次 －

1 「笛吹市 子どもの読書活動」アンケート調査	1
図書館	1
保育所	2
2 「笛吹市 学校における子どもの読書活動」アンケート調査	4
3 アンケート調査からの考察	10

1 「笛吹市 子どもの読書活動」アンケート調査

目的 笛吹市内の家庭、地域における子どもの読書がどのような状態であるか、また子どもの読書環境や実態を把握するためにアンケートを実施しました。

調査対象 図書館 5 館（図書館に来館した乳幼児の保護者 147 人）、
保育所（園）（保護者 396 人）

調査時期 令和 5 年 6 月

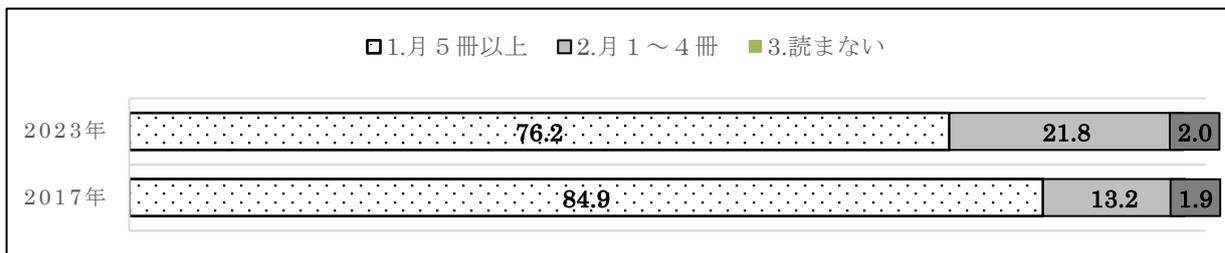
調査方法 選択回答式

設問と回答数（単位：％）及び結果からの分析

比較対象: 前回調査 平成 29 年 6 月

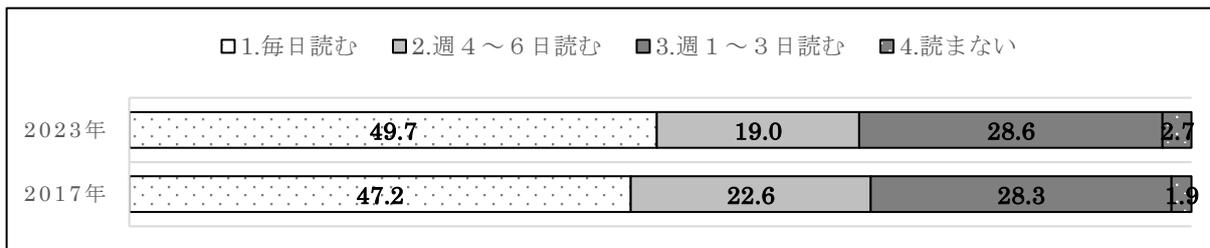
「図書館」

①あなたのお子さんは、月に何冊くらい本を読みますか。または、月に何冊くらい本を読んであげますか。



98%の子どもが、月に1冊以上本に親しんでいます。しかし、月に5冊以上の本を読む子どもの割合は、76%と前回調査よりも約9ポイント減少しています。

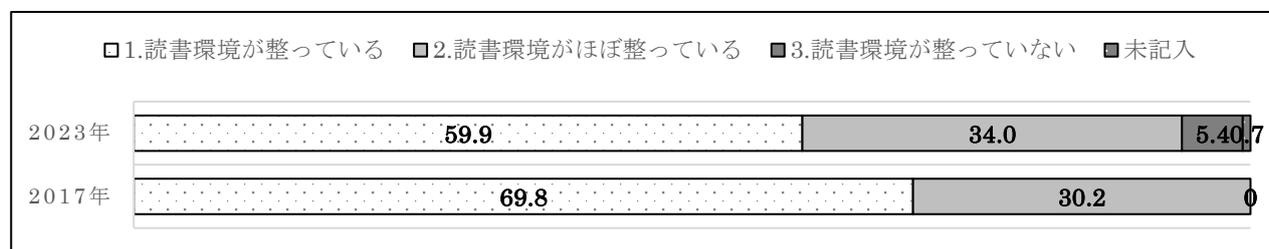
②あなたのお子さんは、週に何日くらい本を読みますか。または、週に何日くらい本を読んであげますか。



① 同様、約97%の子どもが、週に1日以上本に親しむ機会を得ています。しかし、「毎日読む（読んであげる）」の割合は、依然として全体の約半数のままであり、今後

も読書活動への取組が必要と考えます。

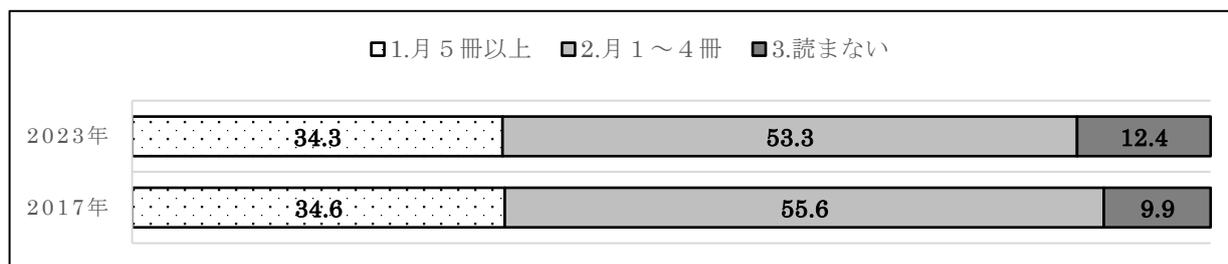
③子どもの読書環境（図書館）について、どのように考えていますか。



「整っている」「ほぼ整っている」が約94%を占めていますが、この結果に甘んじることなく、今後も環境整備を進める必要があります。

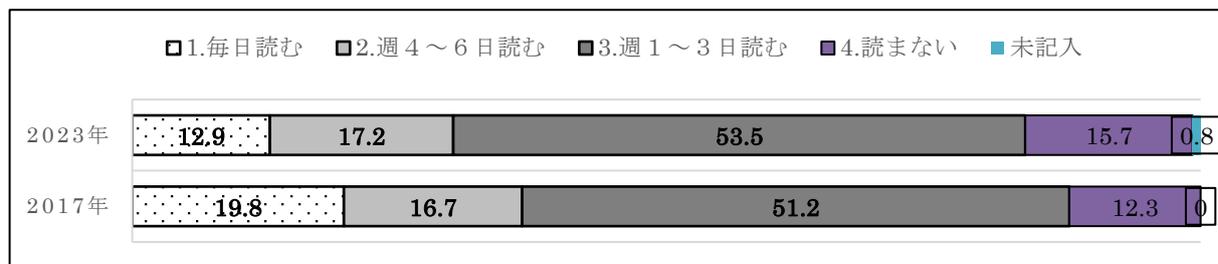
「保育所」

①あなたのお子さんは、月に何冊くらい本を読みますか。または、月に何冊くらい本を読んでもあげますか。



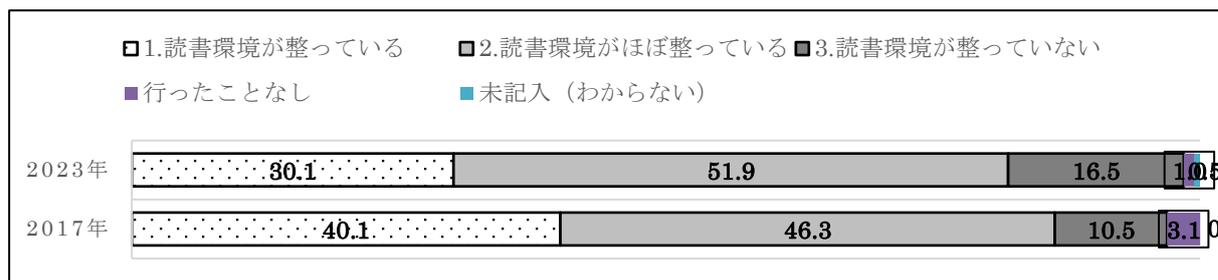
約87%の子どもが、月に1冊以上の本に親しむ機会を得ています。しかし、本を「読まない」子どもの割合が、前回調査より増加しています。この結果は、②の結果にも影響していると思われます。

②あなたのお子さんは、週に何日くらい本を読みますか。または、週に何日くらい本を読んでもあげますか。



約83%の子どもが、週に1日以上本に親しむ機会を得ています。しかし、この割合は前回調査よりも減少しており、家庭での読書の習慣付けの重要性が深まるような手立てを、保護者に向けて行うことが必要だと考えます。

③子どもの読書環境（図書館）について、どのように考えていますか。



「整っている」「ほぼ整っている」と回答した割合が前回調査を下回りました。図書館が定期的に本の団体貸し出しを行っていることや、保育士が読み聞かせを行っていることをもっと知ってもらい、利用してもらえそうな取組が必要であると考えます。「整っていない」「行ったことなし」「わからない（未記入）」と回答した人が約18%いたことから、より一層の環境整備と、図書館に足を運んでくれるよう図書館の利用案内を丁寧に行う必要があると考えます。

2 「笛吹市 学校における子どもの読書活動」アンケート調査

目的 笛吹市内の学校における子どもの読書活動と読書環境の実態を把握するためにアンケートを実施しました。

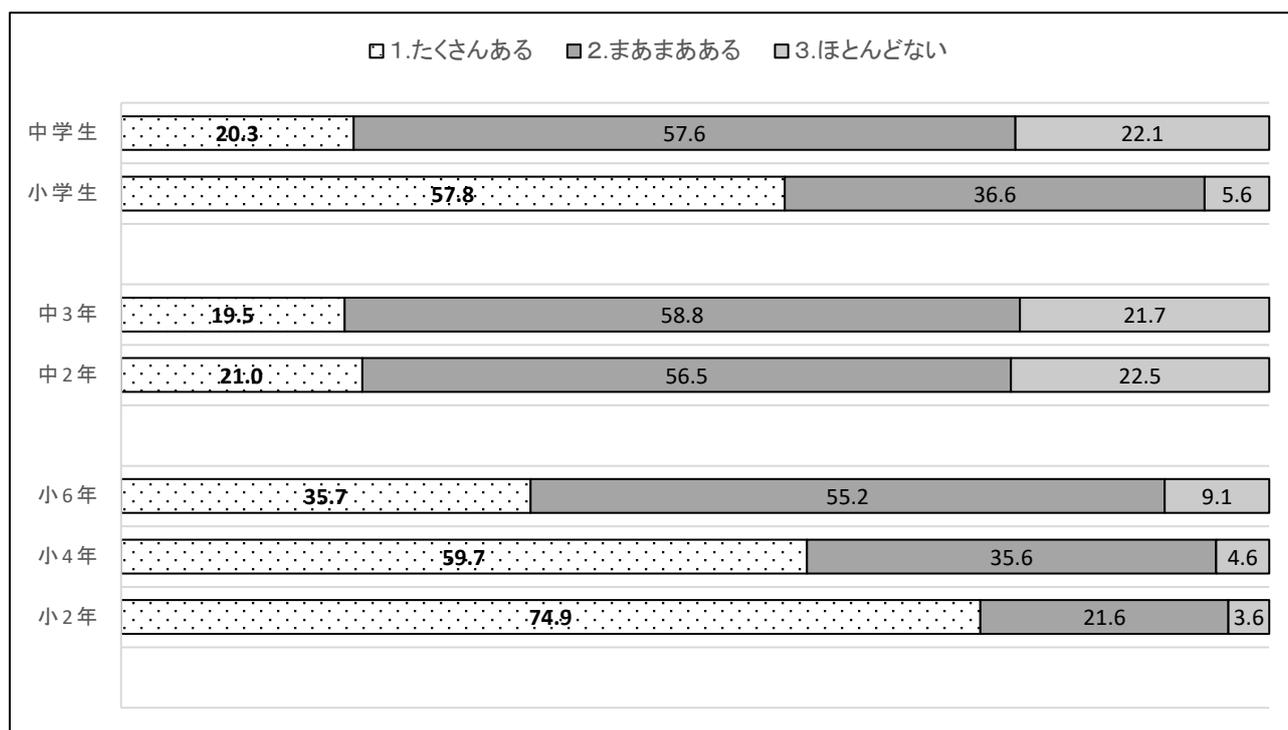
調査対象 市内各地区から小学校7校2・4・6年生（927人）、中学校5校2・3年生（923人）を抽出。

調査期間 令和5年5月

調査方法 選択回答式

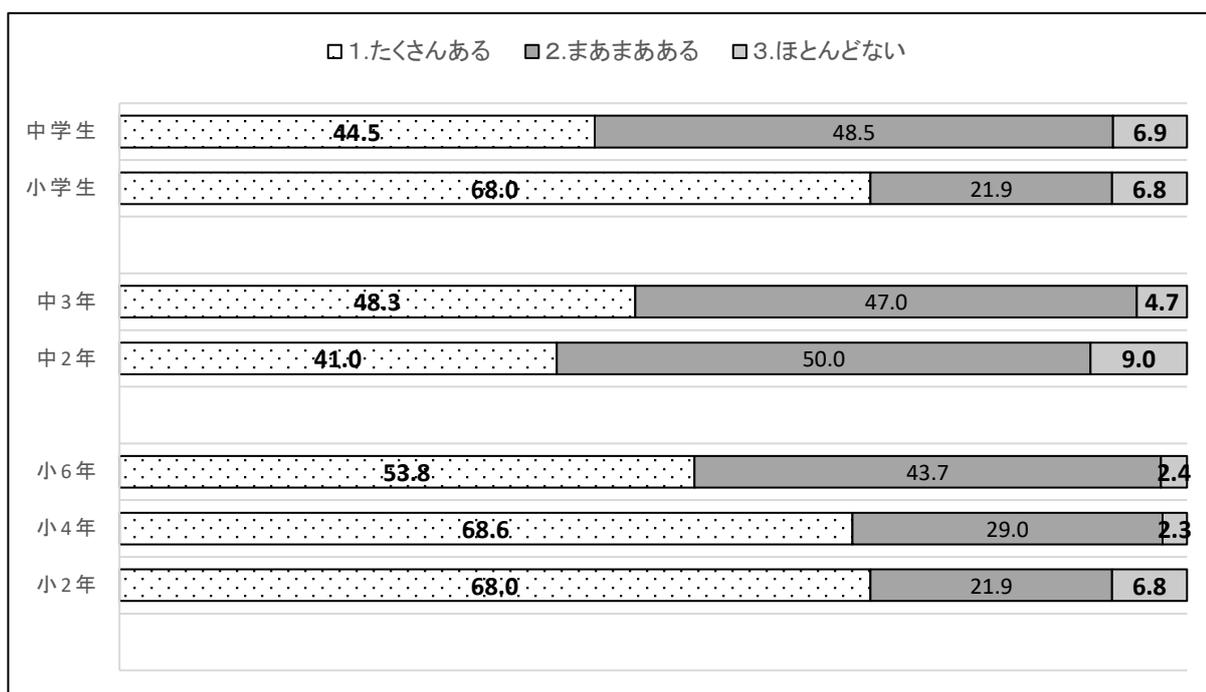
設問と回答数（単位：％）及び結果からの分析

①学校の図書館に読みたい本がたくさんありますか。



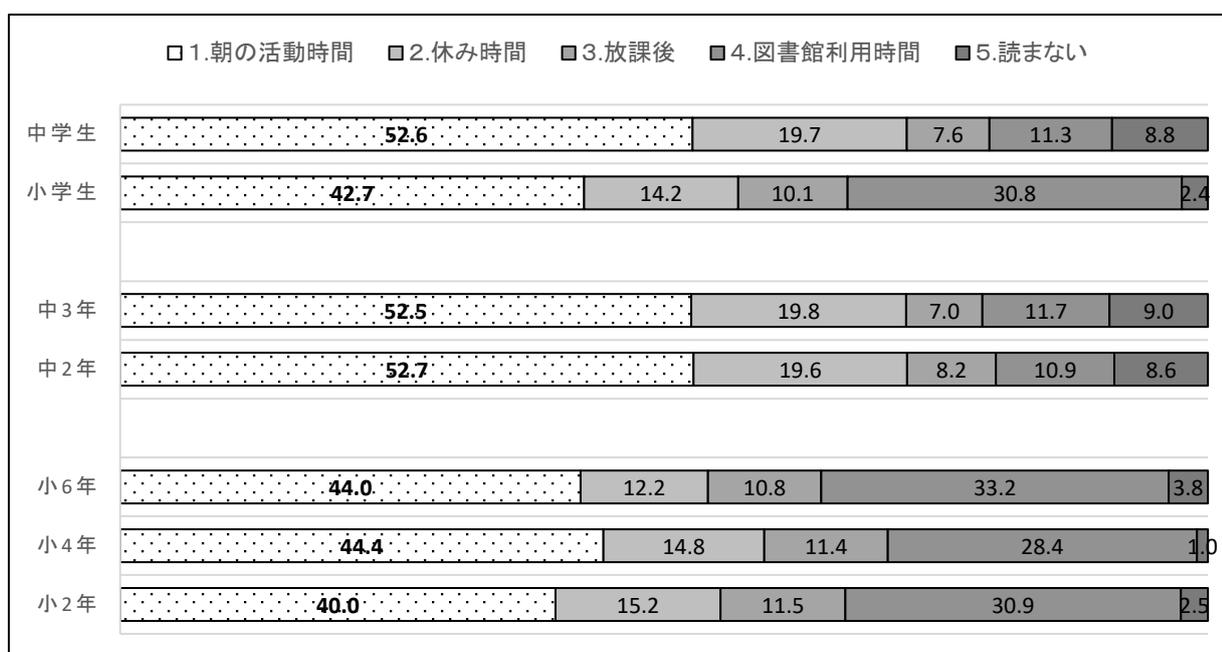
小学生は「たくさんある」、中学生は「まあまあある」が最も多い回答でした。「たくさんある」「まあまあある」を合わせると、小学生は約94%、中学生は約78%の子どもが「ある」と回答しており、読みたい本が身近にあると感じていることが伺えます。

②学校の図書館で調べ学習した時、たくさん本がありましたか。



小学生は「たくさんある」、中学生は「まあまあある」が最も多い回答でした。「たくさんある」「まあまあある」を合わせると、小学生は約 89%、中学生は 93%の子どもが「ある」と回答しており、①と同様に、学校図書館の整備が進んでいると考えられます。

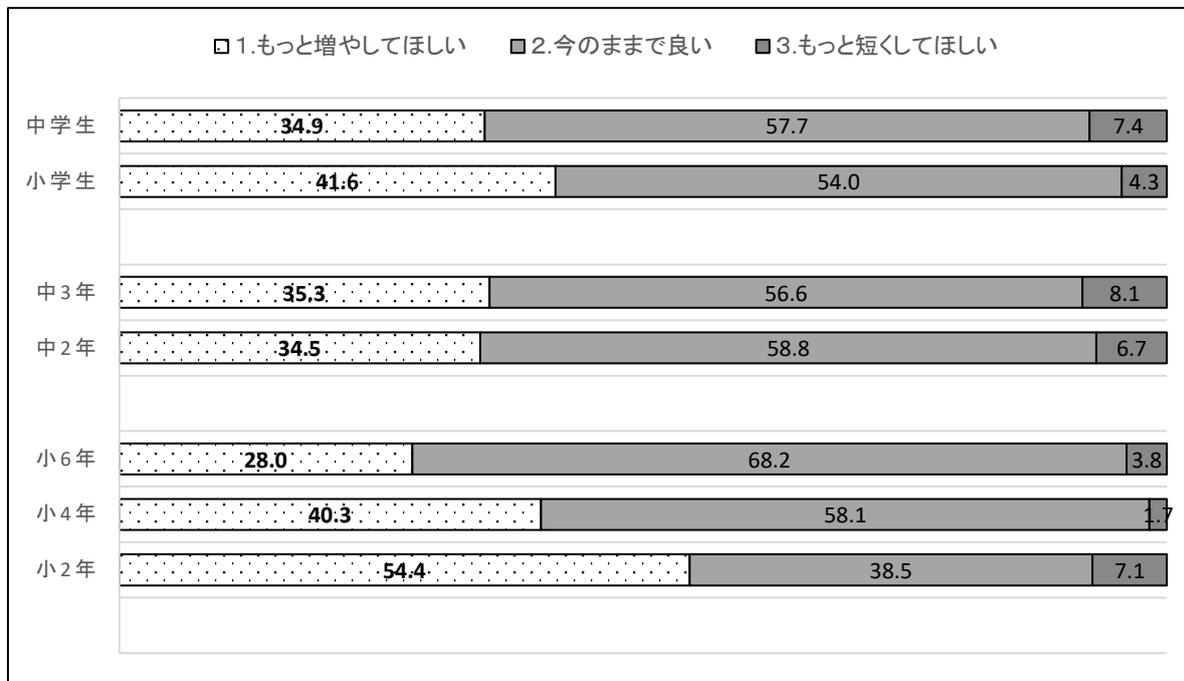
③学校で本を読む時間は、いつですか。



小学生、中学生ともに「朝の活動時間」が最も多い回答で、小学生は約 43%、中学生は約 53%でした。小学生は「図書室利用時間」が次に多い回答で、学校生活の中に読書が組

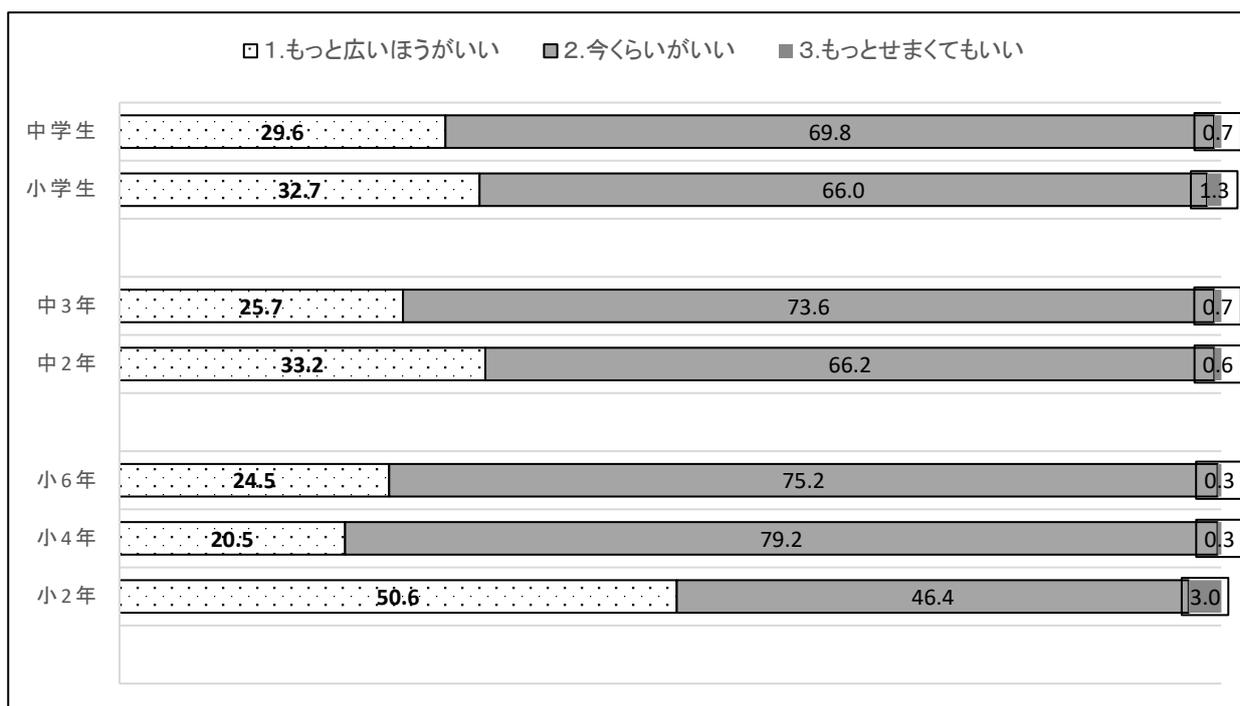
み込まれている様子が伺えます。一方で、中学生になると「読まない」という回答も増えており、これらの子どもへの働きかけが今後の課題です。

④学校で本を読む時間の長さをどう思いますか。



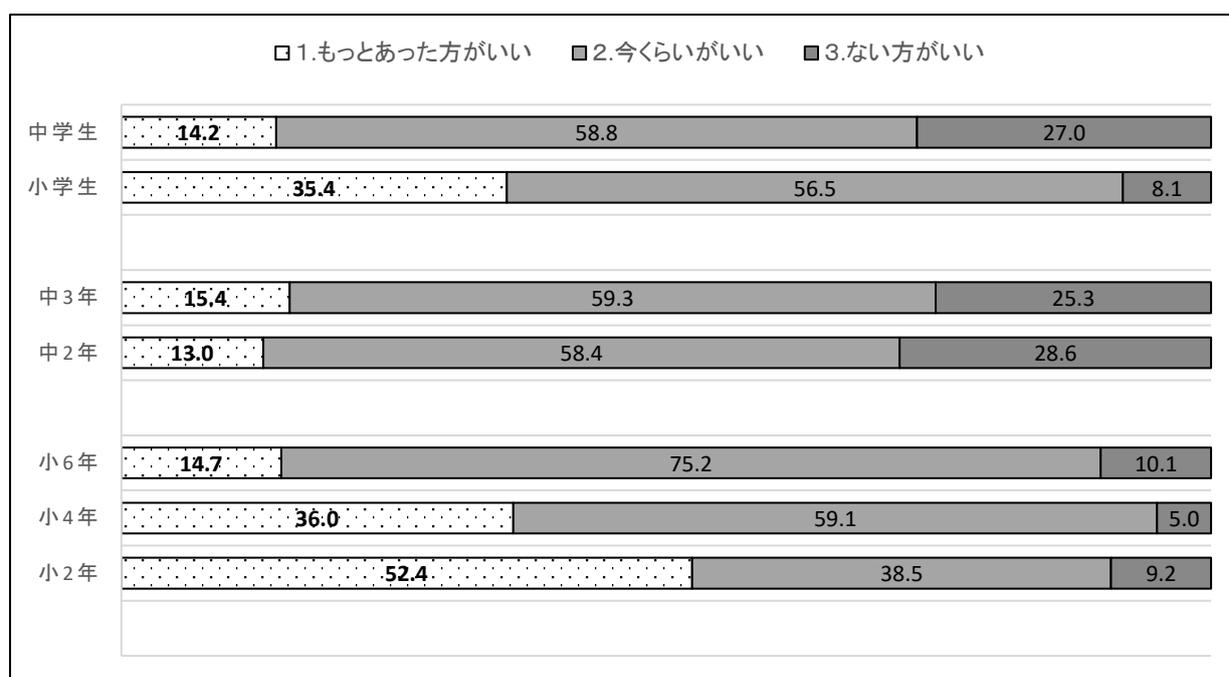
「今のままで良い」と回答した人が最も多く、小学生は54%、中学生は約58%でした。一方、「もっと短くしてほしい」との回答が小学生で約4%、中学生で約7%いることから、子どもたちが読書の必要性を感じられるような手立てが必要だと考えます。

⑤図書館の広さをどう思いますか(授業以外で使う時)。



小学生、中学生ともに「今くらいが良い」が最も多い回答でした。もっと広いほうが良い」という希望も多いです。学校規模の兼ね合いもありますが、より使いやすい学校図書館を目指し、今後も対応が必要と考えます。

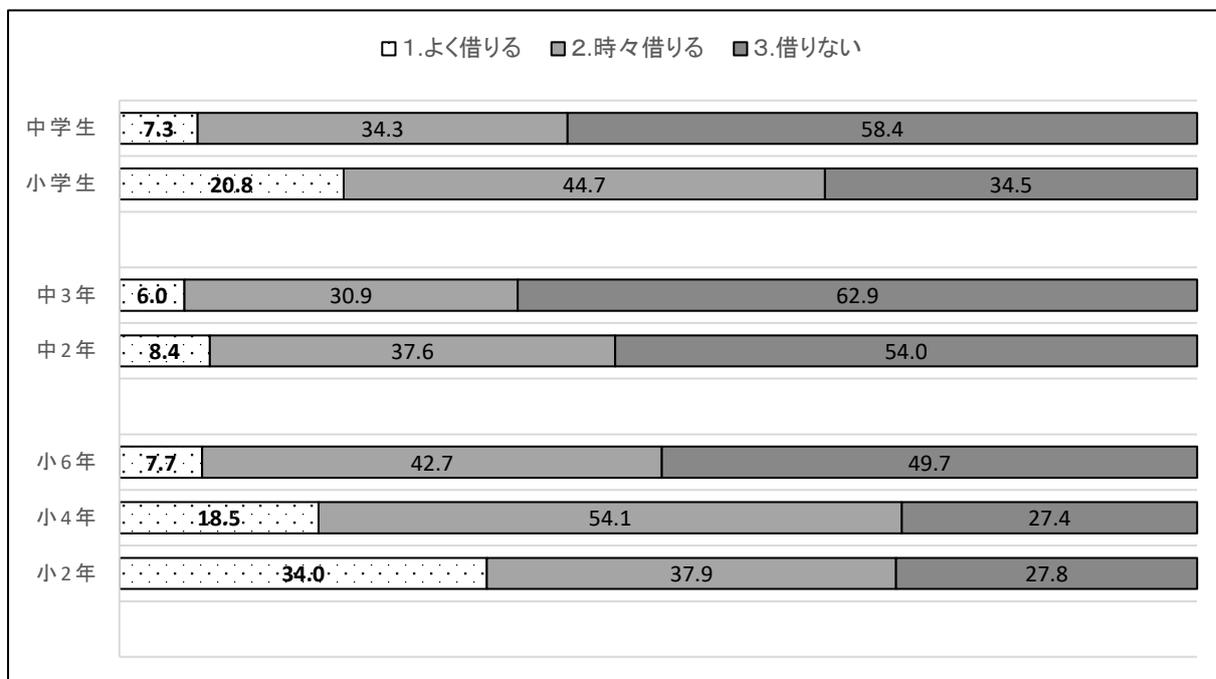
⑥読み聞かせをしてもらってどう思いますか。



小学生、中学生ともに「今くらいが良い」が最も多い回答でした。読み聞かせは読書の楽しさを共有したり、自分では手にしない本と出会う機会でもありますが、発達段階を考

慮した対応が必要だと考えます。

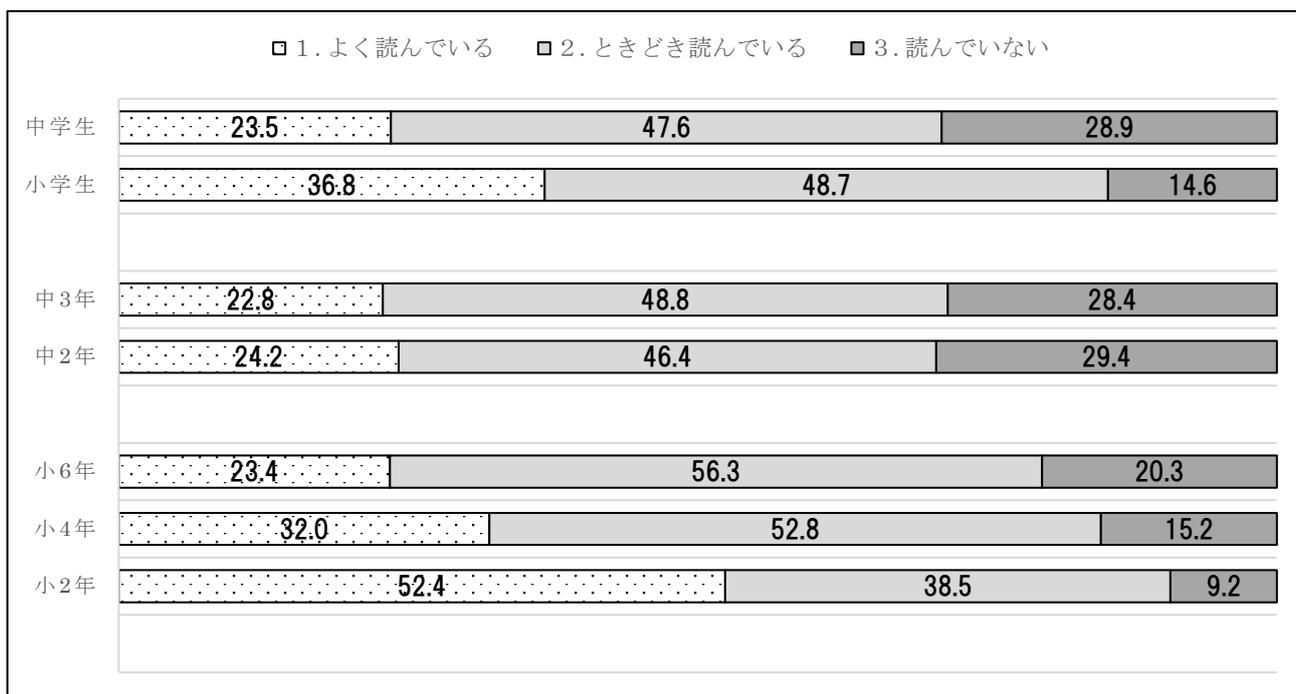
⑦学校の図書館以外で、本を借りることがありますか。



小学生は「よく借りる」「時々借りる」を合わせると、約66%の子どもが学校の図書館以外で本を借りています。

一方、中学生になると「借りない」との回答が約58%と最も多くなっています。原因として放課後や休日が多忙であることが考えられますが、生涯にわたる読書活動として市立図書館の利用を一層働きかける必要があると考えます。

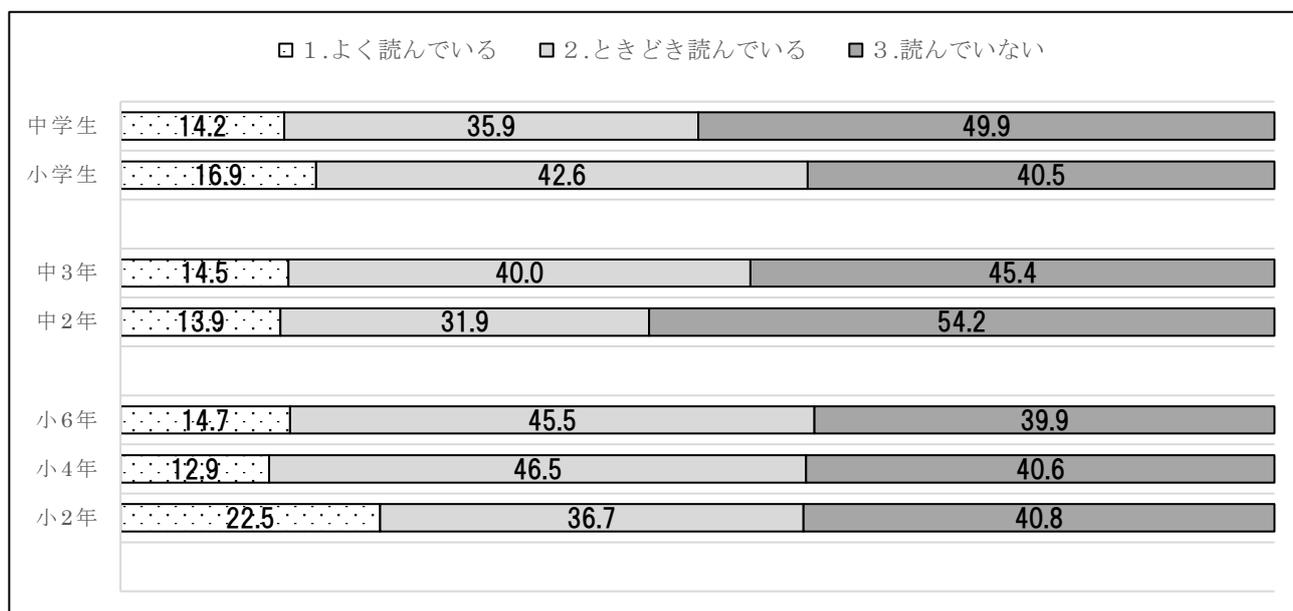
⑧家で本を読みますか。



小学生は、「よく読んでいる」の回答が多く、「よく読んでいる」「時々読んでいる」を合わせると約 91%が「読んでいる」と回答しており、読書習慣が定着しつつある様子が伺えます。

しかし、小学生に対して中学生では「読んでいる」という回答が減少傾向にあるため、今後も家庭での読書が継続されるよう、学校や保護者へ働きかけを行う必要があります。

⑨お父さんやお母さんは、本を読んでいますか。



「よく読んでいる」「時々読んでいる」を合わせると、小学生では約 59%、中学生では約 50%の家庭で生活の中に読書習慣があることが伺えます。しかし、「読んでいない」という回答が最も多いことは注目すべき点です。学校や市立図書館が連携し、家族と一緒に本を読んだり、皆で読んだ本について語り合う「家読(うちどく)」等を推進することや、保護者への啓発活動を続けていく必要があります。

3 アンケート調査からの考察

「笛吹市 子どもの読書活動」アンケート調査については、未就学児の保護者を対象にした調査です。図書館では、おはなし会に参加した親子の保護者を対象に、保育所では、市内保育所 7 か所に通う子どもの保護者を対象に実施しました。

調査の回答を集計したところ、「保育所」で実施した調査よりも、「図書館」で実施した調査の方が、読む本の数や本を読む日数が多い結果となりました。

これは、「図書館」で実施している読み聞かせを保護者が体験することで、家でも取り入れ、家庭での読書に結びついていることが理由だと考えています。

一方、「保育所」においても、多くの家庭で本を読んでいます。しかし、読まない家庭が増加傾向にあります。理由としては、保育士や図書館の司書が出向いて読み聞かせを行っているものの、読み聞かせの活動が保護者に十分に伝わっていないことだと考えています。

読書をきっかけに、家族のコミュニケーションを豊かにしていくような取組を、「第三次子どもの読書活動推進計画」に反映させ、読書活動の推進を図ります。

「笛吹市 学校における子どもの読書活動」アンケート調査については、市内各地区から小学校 7 校の 2 年生、4 年生、6 年生、中学校 5 校の 2 年生、3 年生を対象に実施しました。

学校図書館の蔵書数や本の種類については、概ね 80%以上の小中学生が「ある」と回答しており、学校図書館に満足していることが伺えます。

学校で本を読む時間については、小中学生ともに「朝の活動時間」など学校で行う読書活動が最も多く、学校生活の中に読書が組み込まれることで読書の推進が図られています。

学校図書館以外で本を借りることについては、小学生の約 35%、中学生の約 58%が利用していないことから、もっと市立図書館の利用向上につながる取組を行う必要があると考えています。

「家で本を読みますか」の設問に対しては、小学生の約 85%、中学生の約 71%が「読んでいる」と回答しています。「読んでいない」と回答した小学生は約 15%、中学生は約 29%おり、学年が上がるにつれ「読んでいない」が増加しています。これは、スマートフォンやインターネットなどの利用が学年とともに増加すること、また、中学生では、部活動なども「読んでいない」原因の一つと考えられます。

学校で行う読書活動により、学校での読書は行われていますが、家庭での読書については、学年が上がるほど読まなくなっています。

今回の調査結果を踏まえ、「第三次子どもの読書活動推進計画」では、「家庭」、「地域」、「学校等」が連携し、アンケートから伺える課題の解決に向けて、具体的な取組を示せるように考えています。